

KOBE MONOGATARI

神戸の物語

緒方しげを NO・13





 Pearl City Kobe

*A Happy
New Year*

 PRODUCER & EXPORTER of cultured pearls
**KINOSHITA
PEARL
CO., LTD.**

Order Salon

株式会社 木下真珠

〒650 神戸市中央区山本通1丁目7-7(北野坂)

TEL (078)221-3170

10:00AM~6:00PM (無休)

新年は5日から営業いたします。



本年もよろしくお願いいたします。 1987年元旦

新年あけましておめでとうございます。

ムラタは装いのときめきをお手伝いいたします。



本年も昨年同様よろしく
お願いいたします。

真珠・貴金属・毛皮・輸入婦人服

 **ムラタ**

本社

神戸市中央区元町通6丁目7番8号明邦ビル ☎(078)341-8041代

さんちカシティエレガンス

神戸市中央区三宮町1丁目10番1号 ☎(078)391-3886

甲子園

甲子園球場南・阪神パーク隣 ☎(0798)48-5218





咲いて、あでやか、日本のこころ。

あたたかくて懐かしい日本の表情。飛躍の年
になりますように、願いを込めて飾りましょう。

●えとの置物1,000円 ■6階人形売場



きもの大切なパートナー。
日本人の黒髪に映える美し
さです。●かんざしセット8,
300円 ■4階和装小物売場



初釜のためのふくよかな味わい。キ
リリと姿勢を正して、抹茶とともに
どうぞ。●鶴屋八幡 / 花びら餅各
250円 ■地1階和菓子売場



お正月にはテーブルを松花堂スタイルで、ぐっと晴れやかに。目にもおい
しいおもてなし。●羽子板両面盆6,500円黒内朱ワインカップ8,500円
越前塗柳絵松花堂弁当ケース付(5客)25,000円 ■5階和食器売場



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121

ANNIVERSARY
270
創業270年

生活公園

あけましておめでとうございます。皆様のご愛顧に支えられ
本年、大丸は創業270年を迎えます。この記念すべき年に、神
戸店は全館の大改装を行い、花咲く頃には、より楽しい皆様
の生活公園として生まれ変わります。どうぞご期待ください。



DAIMARU KOBE

電話 (078) 331-8121

おしずび

四季の花しずび

明子



初春に

心つくして

花むすび



お客様と店をむすび、心と心を結ぶ
おむすびになれば、という願いを込
めて「花むすび」と名付けました。
和菓子の感覚で、ちよっとお洒落な
おむすびをお楽しみ下さい。

プランタン三宮B2F ☎078(25)0168



これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です

1月号目次 ● 1987・No.309

表紙／小磯良平

セカンドカバ／中西勝

9 神戸っ子'87／厨子まどか・堀込

12 ある集い／①兵庫県民芸協会②関西セントアンドソサエティ

15 コウベスナツ／坂井知事退任・貝原興政スタート

18 神戸の物語／緒方しげを

29 私の意見／陳舜臣

31 随想／猿丸修吾・廣島美恵子・新谷瑛紀

34 運載エッセイ／安水稔和・カッタ／中西勝

36 こうべ味な旅／山口勝弘

38 KOBÉ音楽夜話21／上高司

42 地域文化論／水谷頼介

46 新春さわやか対談／貝原俊民・藤本統紀子

《特集》「神戸学事始」

①新春座談会／米花穂・尾上久雄・田口寛治・水谷頼介②アン

ケート／新野幸次郎・山口光朝・鈴木謙一・岸木通夫・服部正

・滑川敏彦・田中国夫・嶋田勝次・増田洋・水野進・中内功

経済水ゲットジャーナル

地域文化論／武田則明

小山乃里子の華麗なる男のインタビュー／淀川長治

第11回神戸文学賞発表

話題のひろば／①「首都消失」完成披露パーティー②ロースカ

デン美術公募展表彰式③中井一夫先生の叙勲を祝う会④坂井

時忠前知事の叙勲を祝う会

ファッションズホット

小磯良平展

神戸のお嬢さん／有馬知子・日笠あいつ

ファッションウオッチング／福富美代子

コーヒープレイク

タカラヅカ対談／柴田侑宏と峰さを理と南風まい

動物園飼育日記28／亀井一成

有馬慶時記

神戸を福祉の町に／橋本明

神戸の集いから

神戸っ子倶楽部ニュース

出会いの旅／熊内修一

プロフェッサーPの研究室／岡田淳

KOBE MODERN CULTURE

シネマ試写室／淀川長治

神戸百店会だより

びつといん

ボケットジャーナル

神戸・発見①／「思いっきりハビネス」森下悦伸

第11回神戸文学賞受賞作品「誤父記」／田能千世子・

カッタ／堀江優

海・船・港・テクノ・オシヤン'86

カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也

新しい関西を創造する総合雑誌

オール関西

好評発売中 ¥580 (年間購読 ¥8,000) 1月号

■創造の世界

ヤンマー・グリーンファーム

琵琶湖

■名医に聞く

「泌尿器ガン」吉田修

■カルチャーカレンダー

■「孟さんの新風俗記」他



★スターハイライト

東雲あきら (OSK)

特集

2.

大阪キタ

山口興一、吉本晴彦、鳥井道夫・メッセージ「明日のキタに一言」・大阪キタ・いきいきレポート

座談会「大阪キタの進むべき道」作道洋太郎、

1.

イベント新時代の幕開け

「イベントの精神と手法」小松左京（作家）・「祭と政・イベントは、効果的な政策ツールたりうるか」音田昌子、クラウス・シュベネマン、端信行、林信夫・87イベントガイド



■ビッグインタビュー

竹村健一（評論家）

■上方味覚紀行

「平八茶屋」文・楠本憲吉

■日本の宝との出会い

「熊野古道」文・宇江敏勝

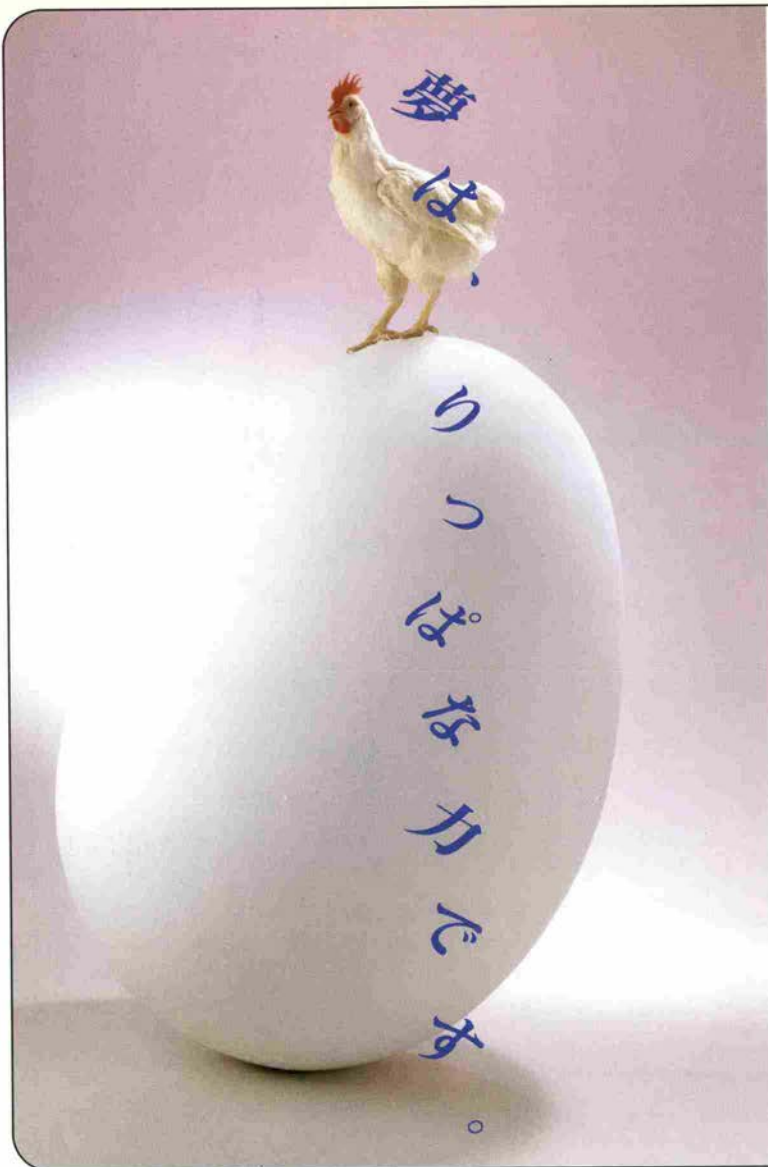
■グループ登場

ミナミフォーラム

1987
謹賀新年

明日をみつめる

神栄石野証券



謹賀新年
成熟した星和台に
待望のショッピングビルが…

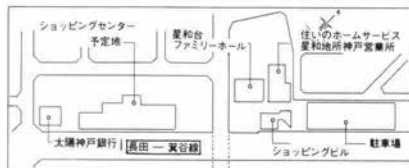
日生 鈴蘭台
ニュータウン
神戸市北区 星和台



生活文化型のお店を
募集しています

1Fカスカード2月OPEN

3Fヘヤーサロンモリ1月OPEN



| | | | |
|-----|--------------------|-----------------|--------------------|
| 3 F | 68.13㎡ (20.67坪) | ヘア サロン モリ | 72.74㎡ (22.00坪) |
| 2 F | 117.07㎡ (35.41坪) | | 72.74㎡ (22.00坪) |
| 1 F | | カスカード | 72.74㎡ (22.00坪) |



よりよい生活環境をつくる
星和地所
建設大臣免許〈7〉33号
〒536 大阪市北区太融寺町3番24号
日本生命梅田第2ビル8F
(担当/事業開発部/栗坂
☎06-311-6571

貸 料 3.3㎡当り10千円/月(各室共)
敷 金 3.3㎡当り1階300千円2階250千円
3階200千円
共益費 3.3㎡当り500円/月予定
■所在地/神戸市北区鳴子2丁目1-5
建物完成 '62年1月

☆私の意見

地道な歩みで 厚みのある 文化都市創りを

陳舜臣

〈作家〉



戦後41年間、日本はゼロの状態からがむしやらに働き今日の経済大国を築き上げました。諸外国が目を見張る日本人のパワーと努力は大いに誇るべきだと思います。しかし反面、日本は今まで経済面のみを重視し、文化面をおろそかにしてきた観もあります。「日本は金持ちだがうすっぱらな国」という国際的な批判やひんしゆくもそういった経済偏重主義に向けられているように思われます。日本のみならず、世界中が経済的な停滞期にさしかかっている今日、この辺で少し「がむしやら」にもブレーキをかけてみてはどうでしょう。日本の社会も成熟期に入っているわけですから、いつまでもがむしやらでさえあればいいということはありません。

そんな日本の中でも、特に先取精神旺盛につつまってきた神戸も、今年は開港120年。また、3年後には市制100周年を控え、大きな節目にきています。しかし、「文化都市」「ファッション都市」などと謳われている割には、やはりまだ経済偏重の観は拭えません。既に経済というハードな器は出来ているのですから、今後はその中に入るべきソフト、すなわち文化の育成にもっと重点を置くべきだと思います。

実は、神戸の港は日本の他の港に比べてずっと遅れて開港したのですが、そのおかげで他の港が行った試行錯誤をせずにスムーズに開港できたわけです。これも「急がば回われ」のいい例ではないでしょうか。時代のトッポを行くことと、いいものを作ることは違うのですからこれからは地道な努力で文化に厚みをつけていくことですね。それには、文化を担う人材を、お金と時間をかけて育てることです。つまり、目先の利益を追う経済優先主義から文化優先主義への転換、これが神戸のそして日本の21世紀に向けてのテーマだと思います。

ポートアイランドの建設が、戦後の総仕上げだとすれば、それが終わったら少しスローダウンして、走りすぎず、地道に、個性的で厚みのある文化の育成に努力すべきだと思います。



SAMOTO CLINIC

佐本
産科

ママといっしょに



澤地雅規ちゃん (S.61.9.20生)

神戸市兵庫区中道通5丁目1-19

「ぼくの初のお出かけ、宮参り。」

お外ってまぶしいんだね。」

★佐本産科・婦人科★

神戸市兵庫区中道通4-1-5

☎575-1024(病院)☎596-9639)

市バス上沢4停南スグ

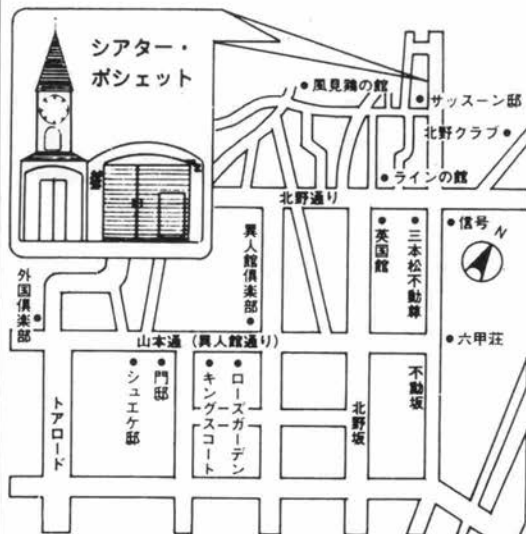
創造の止まり木

実験交流サロン

シアター・ポシェット

レスポンスの空間

賀正



★シアター利用のご案内

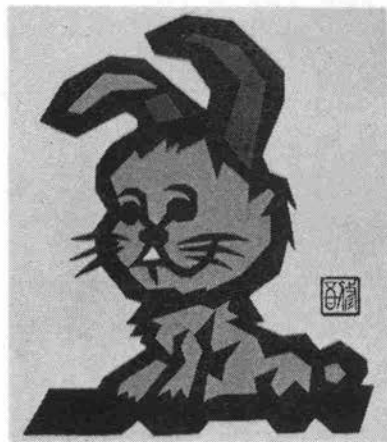
- 曜日、時間/土、日曜日(通常) A.M.10:00—P.M.8:00
- 費用/ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備/グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ

そごう前センター街東南角、さんちか入口

〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F

佐本小児歯科 佐本 進 ☎331-6302~3

随 想



きり絵／猿丸修吾「うさぎ」

きり絵の年賀状

猿丸 修吾

△銀行員・日本きりえ協会会員▽



今年もまた、私はオリジナルの年賀状を多くの方のところへ送った。それは干支をテーマにした——もちろん今年はずさぎであるが——モノトーンのハきり絵である。有難いことにこんな賀状でも、毎年楽しみにして下さっている方がおられる。そんな方のためにちょっとした工夫を施している。上部の賀正と年号

元旦の文字、下の端の住所氏名を切りとると真中が一枚の四角い絵になる。図柄によっては左右を切って、たて長の小さな短冊になる年もある。これを額に入れたり、台紙に貼りつけて飾って頂いている人がある。だから絵は原画を印刷したものであるが、落款だけは朱肉でしっかり押して送る。

きり絵を手懸けて十年余りになる。最初は社内の機関誌に載せるエッセイに私自身がさし絵を付けたことが始まりである。平凡な勤め人で基礎知識や専門的技術もなかったが、そんなことがきっかけである月刊誌が毎月作品を連載

してくれている。こちらは季節の草花や民芸品郷土玩具が題材になっている。

そして、もうひとつの柱として私が今情熱を注ぎ取組んでいるのは、ハ仏像のきり絵である。仏師が木や石を素材にノミで仏像を造るのに対し、紙を素材にカッターナイフ一本で仏さまを生み出していく。作品の特徴は、カラーは一切使わず黒と白とグレイの濃淡で表現し、たたみ一畳ぐらいの大きなものである。この頑固な信念はこれから変えるつもりがない。しかしながらきり絵の世界でこれをテーマにする人は少ない。難しい対象物と思われるからかもしれない。全国規模の公式展でも、仏にこだわり続け毎回仏像の作品しか出展しないのは私ぐらいのものである。

お陰さまで沢山の素晴らしい人とご縁ができた。和紙を漉いてくれる人、表具の仕方を伝授してくれる人、作品に合せひとつひとつ丹念に額縁を作ってくれる人、私はこのような人達によって支えられて

いる。またたくさん素敵な石仏やお地藏さんにも会ってきた。鎌倉の露地で、松本の民芸館の片すみで、倉敷の土産物屋の庭先など思いもしないような目立たないところ

で――。

芸術家仲間では、私などまだ鼻ったれ小僧。しかし二十年三十年すれば少しは納得いくものが出来るかもしれない。彫刻家北村西望師は、百三歳の今もおかくしゃくとして製作活動が続けている。こんな巨匠と比べるつもりはないが、その年齢まで生きるとすれば半世紀以上の歳月がある。これからどんな人生になるか、どんな作品が生まれてくるかなどと考えていると毎日が楽しく、面白くなってきた。

本の重さ

廣嶋美恵子

（主婦）



目測をあやまることがある。持ち上げたものが、見かけより重くギックリ腰になったとよく耳にする。

ある日、玄関に大きな箱がどんと届いた。私の句集が出来たのである。十四年間、俳句を続けてきた凝縮であるが、爆弾でも見るかのように少しはなれて眺めていた。

わが家は、夫と娘の三人家族であるが、三人とも活字中毒で、それぞれに興味の対象が違う。本は本棚よりはみ出し、いたるところに置かれている。本の重みで家が少し軋んできたようである。家族に「本屋立入禁止令」を出したが、それも束の間、限定、絶版寸前ときくとその強迫感でレジの前に立ってしまう。たいてい広い家でもないから、本を買えば古い本は捨てねばならぬ。私は製本を依頼して出来る日はわかっていた。一冊ずつ目を通すと時間はとられ、愛着で整理が捗らない。目隠して古い本を捨てることにした。古本回収の小型トラックは本を満載して去った。その中に私の父の本も混

じっていただろう。私の手には古本代二百五十円がのっていた。

父も無類の本好きだったようだ。父が本を読んでいる姿の記憶はないが、経済、歴史、文学全集が本棚に整然とあった。時折り父の本棚より永井荷風、谷崎潤一郎を抜き出して、伏せ字の多い小説に自分で或る情景を創って読んでいた。興味の対象に気づいた父は、「まだ早い。」と烈しく怒った。隠れて尚も読み続けた。そのうち見て見ぬふりの父を知った。

終戦の翌年、多くの読み残しの本をおいて四十九歳で父は息をひきとった。父の分も含めた小銭が私の手の中で温っていた。

玄関に置いたままの本を運ぶため持ち上げた拍子に、腰のバランスを失いやというほど腰を柱に打ちつけてしまった。目測より軽かったのである。「粗悪な紙は泥分等を含み重い。紙質の純度の良いものは軽いよ。」と友人は教えてくれた。

いま、私の手にある私の本



4年ぶりの阪神百貨店の
個展会場で

は、軽く装丁も気に入っている。それより去来していった父への感慨がずっしりと重く胸に残った。この句集が父の本に替って、わが家である時期までスペースを占める。

この句集の中味の重さは、はたしてどの位あるものであろうか。

古本の紐のゆるみや鳥渡る

美恵子

■句集「銀の飾り」廣嶋美恵子著／書肆
新社 三〇〇〇円

街と彫刻

新谷 琇紀

△彫刻家▽

ヨーロッパの街々を旅していて印象に残るのは、どこに行ってもその街ならではの特色があり、表情を持っていることである。古い皮袋の中に、熟成してきた美酒のように、街のたたずまいは落着いており、あるがままに調和している。いたるところ「絵になる風景」があり、味わい深い

である。

街の中心には、たいてい広場がある。そこには必ずといってよいほど噴水やモニュメントの彫刻がある。それらはその街の象徴であったり、歴史を物語るものであったりする。それらは、そこに置くべきたしかな理由があったわけだ、単なる飾りではなかった。そこに設置されることで意味を持ち続けてきたのである。街の人々に親しまれ、愛されるようになって、彫刻はいつしか街の表情の一部となっていたのだらう。

近年こうしたヨーロッパにおける都市と彫刻の関係にならって、わが国でもさかんに街の中に彫刻が設置されるようになったのは、彫刻家のひとりとして歓迎すべきことではあるが、手放しで喜んでもいられない事情がある。というのは、ヨーロッパの都市における広場のようなオープン・パブリックスペースの伝統が我が国では稀薄だからである。

古代ギリシャの都市国家では「アゴラ」と呼ばれる広場

が政治や裁判や商業などの舞台となり、都市生活の中枢として機能したが、その後古代ローマでは「フォロ」に継承され、さらに中世ヨーロッパの歴史においても、都市における広場は重要な役割を果たしてきた。広場とともに都市が発展してきたと言っても過言ではないだらう。街区の中心であり、同時に人々の社会活動をも集約してきた広場は、長い年月の間に都市の表情を形づくってきたのである。

これ対して、日本ではこうした公共空間はほとんど存在しなかったように思う。都市の中にオープンパブリックスペースを積極的に導入したり、評価するようになったのは、つい最近のことのような気がする。いずれにせよ、形のうえでヨーロッパと同じ水準にたどりつこうとしても、彼等とのこの伝統の差はいかんともしがたい。

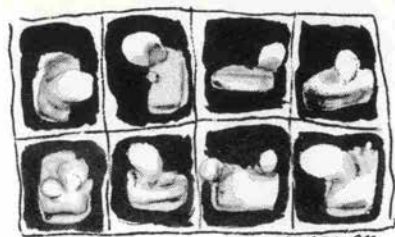
それでも私たちは、これまでイタリアの街々で広場で彫刻が果してきたような役割を、必ず近い将来日本でも実現できることを信じている。

■随想／旅のかたち(8)

春の宿

安水稔和

絵／中西勝



二十年ばかり前のこと。昭和三十八年（一九六三）一月二日、正月早々飛び出して花祭を見に行った。それから三年連続毎年二日に飛び出した。そのあとまたたび飛び出して数年通いつめた。

花祭とは愛知県北設楽郡一帯が行われる冬祭で湯立てを中心とした霜月神楽である。十二月から一月まで村ごとに日を変えて行われる。私が行ったのは東栄町下栗代の花祭で、その後もずっとそこへ通った。花祭は花ともいい、祭りを言う場所を花宿といった。外花と内花とがあって、外花は公民館など公共場所で行われ、内花は民家で行われた。下栗代は内花だった。

入口から表座敷まで戸障子を取りはずされ奥の間が神座となる。土間にはかまどが築かれ、火が燃やされ、火の粉が散り、煙が舞い、湯気が立ちのぼる。かまどのまわりの土間で舞いがはじまる。市の舞。花の舞。三っ舞。四っ舞。舞い手とともに見物人たちも土間に入って舞う。いつはてるともなく舞い狂う。真夜中をすぎてもおわらず、白々と夜が明けてもつづき、昼になってもお

わらず、立ちこめる湯煙のなかで突然金ぐつつがえされ湯が撒き散らされて土間は泥田、気がつく人々は散り、祭りはおわる。御神体が山あいのお道を帰っていくころにはすでに日が西に傾いている。

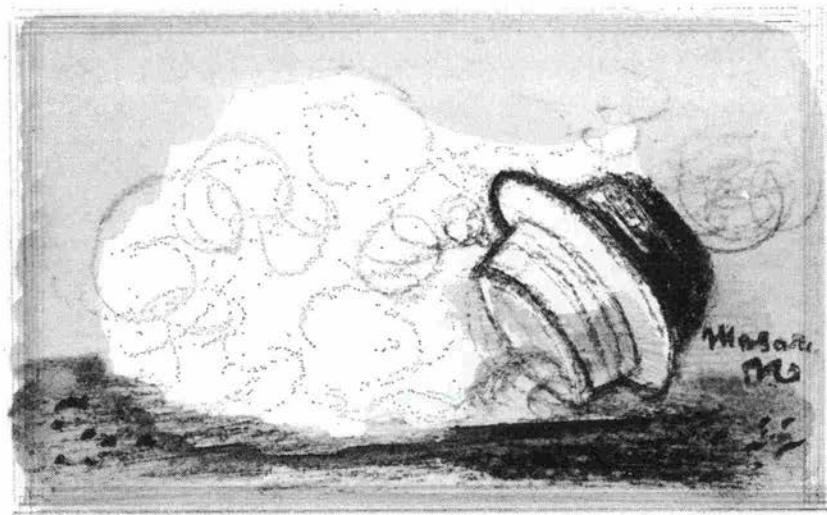
丸一日ほとんど寝ずに過した花宿を去る。夕闇の迫った道を歩く。竹藪のかけ、川の曲り角、崖下、おもいだしたようにあらわれる家の軒に揺れる飾り、門先にそっと置いてある春のしるし。川の音、風の音、山の音、山は初春。

それから、近くの鉾泉宿にたどりついて泥のように寝たり。田口の商人宿に泊って次の朝雑煮と黒豆が出たり。本郷で一軒だけ開けていた食堂に入ってこたつに足を突っこんで年賀状を書いたり。どこだったか五平餅屋で五平餅買って歩きながらたべたり。奥三河の山のなか、バスに乗ったり歩いたり、北へ抜けたり西へずり落ちたり。

ぴいんと張りつめた寒色の冬空を眺めながら、火と煙と人いきれと、笛と太鼓と霜と、黒々と迫まる山影と、花宿の夜を目の裏に浮かべかえしな

がら、初春の旅はもうしばらくつづく。

二百年ばかり前のこと。天明四年（一七八四）六月に信濃国を旅立った菅江真澄は越後から日本海沿いに北へ進み、同年九月には出羽国に入った。本荘から道を東にとって子吉川をさかのぼり、十月十一日に雪の雄勝郡西馬音内の床にたどりついた。十九日、柳田村の草なぎ某の家に至り宿を頼むと、雪の消えるまでここでお過しなさいとねん



ごろにすすめられて、その地で冬を越すことになった。

大晦日の夜、鶏もゆく年を惜むのであろう、声をかぎりに鳴いた。故郷を思へば二百余里をへて、玉くしげふたとせ、旅に、としをむかふならん、と真澄は鼠が関からの旅日記「秋田のかりね」を結んでいる。

明くれば天明五年正月一日、初日のさしのぼる光が雪の山々に映えて美しく、軒端に飛びかう群雀のさえずりも今日はことのほかのどかに思われる、家ごとに訪れて新年の挨拶をかわしていく人々の言葉も晴れやかである。得がたい厚意に甘えて雪の村で冬を越すことになった真澄はつづく旅日記「小野のふるさと」をこのように書きはじめ、つづけて北国の正月の風習の数々をこまごまと書き記している。

星を仰いで起きだして汲みあげた若水を幼い童からはじめて老人までまわし飲む。おけらの根を焚いて嗅ぎ身体や衣服に煙をつけて疫病除けの呪いとする。七日の七草。初庚申。帳祝い。

十五日、またの年越し小正月。鳥追い。田むすび。米ためし。餅焼き。女の子が集まってちいさく切った餅を火に入れて焼く。女のほうから手を出したとか、男が言い寄ったとか、これは誰であれは誰だとか、餅を人になぞらえて大声で笑いあって一夜を過す。翌十六日、朝から雪が降り、しのぎがたいほどの寒さである。

そのとき真澄三十一歳。旅はまだはじまったばかり。この先四十数回の正月を真澄は北国の雪の宿で迎えることになる。

●こゝろべ味な旅²⁹

未来派料理と イタリア的 人生

山口勝弘（ビデオアーティスト）

「禍福はあざなえる縄のごとし」という。が僕の場合は人生はこんがらかる縄のごとしといったほうがいい。

とにかく何本もの縄がごちゃごちゃの塊りのごとくなり、縄の先があちこちに頭を出している。まことにもってややこしい。

しかし、とにかく縄は一本につながっているから、いくつかの脈絡をたどることは可能である。

予定もしないで人と会い、そこで神戸で今度個展をやる。ほぼ一カ月間、東京と神戸を行ったりきたりになる。という僕の話を書いて、すぐに一本の電話をかけてくれた。その結果、熊内のマンションの一室の鍵をもらって、「銀河庭園——山口勝弘ビデオスペクタクル」の準備期間から熊内住いとなった。

折りから紅葉の六甲の麓の坂道は、まるでローマかどこかイタリアの街のようである。

近くのパン屋メルヘンの焼きたてのパンを、朝早く買いにゆくのが愉しみになってきた。

とにかく美術館への往復にも便利この上なし、といった具合でまことに調子がいい。

これも一つの偶然で、縄の塊りが生きた証拠である。

今度の展覧会の初日に、神戸をはじめ大阪、京都の先輩や友人たちが発起人となり、お祝いの会が開かれることになった。ただし、励ます会というのだけは、ごめん被りたい。

不遜と言われようと、何と言われようと、こちらから励ましてあげるのは喜んで出かけるが、励まされるのはうれしくない。

そこで、ふと思いだしたのは今年の九月に、ベネツィアへ出かけて未来派の展覧会を見たことだった。現代美術の世界では、今世紀のはじめイタリアで生まれた前衛芸術運動として有名だが、一般にはほとんど知られていないのが未来派である。

そしてヨーロッパのバカンス最後の日程である九月は、なお人の渦でいっぱい。

そのベネツィアの未来派展も、十時の開館一時間前から人の列でいっぱいである。さて、未来派展をみながら、やはりこれはイタリア的な芸術運動だということに気付いた。



生活をエンジョイする人たちにとって、料理もまた芸術なのだ。サンマルコ広場横の本屋の棚に見かけたのが「未来派の料理」というペーパーバックである。

イタリアから帰ってきて、少しは気になっていたその本のことを思いだして、励まされる代りに、イタリアの未来派料理を試みようということになった。

展覧会の準備の忙しいなか、といっても未来という名前には、いささか昨年お世話になっていた。実は昨年の五月から八月まで、イタリアのジエノヴァからマジョーレ湖畔のパランツァにかけて、やはりビデオによる「未来庭園」という名称



山口さんを囲んで、カサブランクラブにて

の展覧会を開いて、イタリア人たちの未来派好みにうけたのだった。

だからこそ、神戸でその料理を作って恩返しをしなければならぬ。

さっそく辞書と首っ引きで、四つのメニューを選んできた。

未来派料理の特徴は、伝統的なイタリア料理のスタイルを破壊するため、アンティパスタ(前菜)からデザートまでの組合せがごちゃごちゃである。スパゲティーとサラダのトマトやアスパラガスが、抽象絵画的構成で一盛りになったり、若鶏の丸焼きを鏡のような丸皿にのせて出すのは、シニョリーナの恥らいもない姿のエロチックな見せかけである。

またいろいろの料理すべてに砂糖を大量に使用している。どちらかといえば辛口好みの日本人的グルメ感からすると、甘すぎるのであるが、未来派というのは、運動やスピードが大好き人間たちばかり。

とすると、もっともエネルギー効率のよい砂糖を使って、瞬発的な爆発力を高めよう、という狙いにちがいないと推察した。

でもそのエネルギーはどこへ向って飛んでいったのか。明日への活力か、女性への活力か、それとも本当に芸術への活力だったのか。

イタリア人のことだからどれが本当だか分らない。芸術も人生も、すべてこんがらかったスパゲティーのようなのが、いかにもイタリアらしい。



▲筆者紹介

一九二八年東京生まれ。一九五一年に北沢省三、武満徹らと実験工房を結成。『グワイトリウス』、『ガラスによる構成絵画』を制作。その後ヴェニス・ビエンナーレ等世界を舞台に新しい芸術を展開する。ビデオアートの分野における日本の第一人者。

レコードと音の遍歴

上 尚士

兵庫教育大学助教授・画家



「この子は二つぐらいでも自分の好きなレコードを何枚もある中から探し出してきたんですよ、字も読めないのに」。母はよく誇らしげに喋っていた。教育の仕事に携わるようになって、この種の能力は幼児が皆もっている当たり前のものであることを知って、この母の自慢話は親馬鹿そのものと再認識したが、それでも私が二歳頃からレコードに触れていたことを語っていて、自分には結構それなりの意味をもっている。そのレコード音楽は邦楽の端唄のようなものであったらしい。

そう言えば、母がよく口ずさんでいたのは「砂漠に日が落ちて：」だとか「東京行進曲」など娘時代の流行歌ばかりであった。小学校での音楽は日中戦争から第二次世界大戦に突入する時期で、和音の判別力の養成に終始していた。これは敵の爆撃機と味方のそれとを判別するための能力開発であって、音楽を目的としたものではなかった。中学では一億総決戦で学徒動員に明け暮れ、音楽どころではなかった。私がつとまともな音楽教育らしい授業を受けたのは大学で教養単位として受講した「西洋音楽史」であった。

しかし、幸いにも、私には音楽好きのいい友達がいる、そんな環境にありながらもレコード音楽

に接する機会をもつことができた。ギーゼキングだとかシュナーベルといった演奏家のいることを知ったのも彼と彼のもっていたレコードを通じてであった。

当時はもちろんSP盤で再生は手回しの蓄音機で、針は竹製であった。その頃、すでに真空管を使って分厚い音を再生する電蓄なるものがあつたが、これは高価で、とても私たち学生の手にとどく代物ものではなく、憧れの的であった。手回しの蓄音機で何とかそれに近い音は出せないものかと、いろいろ試したが、結局、真夜中誰もいない体育館の真ん中に蓄音機を置き、そこから再生される反響した音を体育館の外で聴くというのが一番それらしく聴こえるということを見つけた。その時の音は素晴らしいものに思えた。今でもその音は耳に残っている。思うに、私がつい最近老眼鏡のお世話にならざるを得ないようになるまで、飽きもせず営々とオーディオ機器の自作を続けてきたのも、どうもその頃の音に対する欲求不満がそのエネルギ―として心の中にあり続けたのではないだろうか。

今でも、レコード音楽に関する限り、録音の悪いものはどうも敬遠しがちであるのも、当時のい

い音への憧れの持続であるに違いない。そんなことを感じていながら、一方では、雑音を機械的に取り去り、音も当時とは比較にならぬほど澄んでいるレコードの復刻盤を聴くと、どうもウソっぽく、本物まがいにはしか聴こえないのである。

勤め出して、給料を貰うようになると、狭い部屋はたちまちにしてレコードとオーディオ機器で一杯になってしまった。加えて、FM放送が実験を開始し、そのエアチェックに凝り出したものだから、テープが山積みになりどうしようもなくなってしまった。機械のスペックだけを見ると、おもちゃみたいなテレコであったが、それでも今、当時録音したテープを再生してみるとかなりな音で鳴っている。それに何よりも当時としては珍しいイタリア歌劇団来日公演の生録など、ちょっと



手放し難い私の宝物になっているものもある。こうして気が付くと、数知れぬレコードとテープで、購入たびに整理はしてきたつもりであったのに、目指すレコードを探すのに大変な時間がかかるようになってしまった。今流行りのパソコンによる整理も試してみたが、データを入力する時間がなくて失敗した。最近では、重複を承知で聴きたいレコードを買うこともある。探しても結局は見つけ出せずいらするよりも、少しでも感銘を受けることができれば、それで元はとれたと思うようになってきた。

思えば五十数年のレコードとの付き合いである。その程度の無駄は許されてもいいだろう。

＜筆者紹介＞昭和5年東京生れ。東京美術大学美術学部卒業、千葉大学と女子美術大学講師を経て、現在兵庫教育大学助教授、画家。第2回現代の裸婦展にて受賞。毎年ポートピアホテル内の三越ギャラリーで個展を開く。著書に「デザインの新しい技法」「美術教育の構造」「編集レイアウト」など。須磨区在住。



★ポケットの中の神戸シリーズ 《異人館のある風景》

パスポート北野

ファッショナブル神戸・北野ガイド

好評発売中〈ポケット版・200円〉

神戸を彩るチャームポイント・北野。
これは北野界隈の最新ガイドブックです。

＜目次＞

- 異人館のある風景
- 北野から山に海に
- 北野3時間世界めぐりあい
- キタノわくわく面白ニュース

- パスポート北野エクセレントショップ200
- 真珠・宝飾・装身具
- 服飾・洋品
(婦人服飾・紳士服飾・帽子 etc.)
- 生活文化
(家具・インテリア・画廊・ギフト etc.)
- 菓子・パン・喫茶
- 日本料理
- 中華料理
- 世界の料理
(オタケー・フランス料理・各国料理 etc.)
- ドリンクング
- ホテル・旅館・観光ポイント
- 北野町界隈歳時記

編集・月刊神戸っ子／発行・コミュニティーサービス㈱／神戸市中央区東町113-1 大神ビル9F ☎(078)331・2246